

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2018 年度 共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2019 年 4 月 23 日 提出

| | |
|--|-------------------------------------|
| 1. 研究課題名 | |
| 「京都ニュース」の保存と活用プロジェクト (英文標記: “Kyoto News” preservation and utilization project) | |
| 2. 研究代表者 | |
| 氏名(ふりがな) | 所属機関・職名 |
| 太田米男(おおたよねお)大阪芸術大学教授 | 一般社団法人京都映画芸術文化研究所代表理事(おもちゃ映画ミュージアム) |
| 3. 研究分担者(合計: 名) | |
| 氏名(ふりがな) | 所属機関・職名 |
| 竹田章作(たけだしょうさく) | 立命館大学映像学部 |
| 日高由紀(ひだかゆき) | 京都市総合企画局総合政策室市民協働推進コーディネーター |
| 太田文代(おおたふみよ) | 一般社団法人京都映画芸術文化研究所(おもちゃ映画ミュージアム) |
| 斎藤信也(さいとうしんや) | 立命館大学映像学部 |
| 長谷憲一郎(はせけんいちろう) | 京都大学大学院人間環境学研究科後期博士課程 |
| 宮本明子(みやもとあきこ) | 同志社女子大学表象文化学部助教 |

| |
|---|
| 4. 研究課題の概要(300 字程度) |
| <p>1956 年から 1994 年まで京都市広報局が制作し、市中の映画館で上映された「京都ニュース」。京都市歴史資料館に保管されている全 244 作品(全残存 547 巻)の画・音ネガ原版と、その原版からプリントされた 16mm(約同数の上映プリント)が立命館大学アートリサーチセンターに委託保管されている。これらの内容を把握することで「京都ニュース」の全容を解明する。この映画のデジタル化は、現在 1970 年までの 70 本にとどまり、残り 174 本が未作業のままである。各号により 4~5 のトピックがあり、1200 以上の題材が記録撮影されている。これらの映像は、高度成長期からバブル崩壊期まで、京都における市政活動や施策、都市開発による景観の変容、折々の世相や出来事、市民生活、祭事など、全容を把握することで、「京都学」の見地のみならず、各分野からの学術的なアプローチや研究素材としての価値が大きいと考えている。京都市による全ニュース映像のデジタル化に向けて、データベース化を進めることは重要な研究機会と考えている。</p> |
| 5. 研究成果の概要 |

「京都ニュース」に関する調査は、京都市歴史資料館に所蔵している画・音ネガ原版の目視調査にはじまり、全容のリスト化を進める中で、直接ネガ原版を手に触れることができないことにより、調査は暗礁に乗り上げていた。そんな折、立命館大学アートリサーチセンター(ARC)に大量の「京都ニュース」16mmプリントが所蔵されていることが分かり、研究設備・資源活用型研究で、「京都ニュース」の全容を調査する目的で、共同研究を申し出た。

初年度にあたる今回は、各缶に貼られた缶票を基に、既存リストとの確認、缶票に書かれた内容とフィルムに記録された映像との照合を目的に、ARCのフィルムを中心に調査を始めた。

一方、京都市は、フィルム保存を目的に、「国立映画アーカイブ」に寄贈すべく、指定された専門のラボにフィルム調査を依頼した。あくまでフィルム寄贈を目的に、現存のフィルムの種別(製造会社、フィルムの種類、カラーか黒白か、画・音ネガの確認、型番、フレームの規格、製造年など)、状態として検尺、AからDまでの劣化度の調査、破損の状況、もしDの場合は隔離するなどの対応が必要になる。

これらの調査は、すでに目視程度であるが把握しており、リスト化もできている。問題は、各フィルム状態の調査ではなく、「京都ニュース」の内容調査であり、16mmフィルムから時間(フィルムの長さ)や内容も把握できる。その意味ではデジタル化を急ぐことになる。そこで、ARCのフィルムからデジタル化を随時行うことで、全容を解明することにした。費用の問題はあるが、簡易テレシネの形で、当法人がデジタル化し、リストとの照合を進めている。現在のところ、全「京都ニュース」の95%以上の詳細な内容が分かり、欠落したフィルムが数本のところまできている。デジタル化も進め、4月23日現在、244作品中154作品の段階まで作業は完了している。